



# JKSK Now!

(2015年10月21日)

NPO 法人 JKSK 女性の活力を社会の活力には、平成 22 年 10 月 16 日に国税庁から認定 NPO 法人の認定を受け、認定期間は平成 27 年 10 月 31 日の 5 年間でした。認定 NPO 法人とは、NPO 法人のうち、より公益性の高い活動をしていることを審査によって認証され、国税庁長官の認定を受けている団体です。認定をうけることにより税制上の優遇などをうけることができます。このたび、認定更新の時期を迎え、所管官庁が東京都に変更になるとともに、認定審査の結果、多くの方からのご寄付に支えられ、公益性の高い活動を行ってきたことが認められ、認定の更新を果たすことができました。これもひとえに皆様のご支援・ご参画の賜物です。心より感謝申し上げます。引き続き、女性の活力で日本のみならず世界に活力を生み出す活動を進めてまいります。

## 1. JKSK 結結プロジェクト

### (1) 東京新聞と JKSK のコラボレーションによる連載「東北復興日記」

2012 年 8 月から始まった連載も 4 年目に入り、10 月 23 日で第 158 回になります。(東京新聞朝刊 4 面・金曜日掲載)。バックナンバーを JKSK のホームページに掲載しています。

- 第 154 回 母子のケア 実例を調査 (国立保健医療科学院主任研究官産婦人科医 吉田穂波さん)
- 第 155 回 和やか古民家事務所 (いわきおてんと SUN 企業組合 松本幸子さん)
- 第 156 回 避難道整備の署名提出 (東日本大震災圏域創生 NPO センター事務局長太田美智子さん)
- 第 157 回 稲かけ「ほんにょ」復活 (元神奈川新聞記者・フリーライター 柏木智帆さん)

### (2) 福島県広野町応援プロジェクト

JKSK では 2013 年からボランティアバスを運行し、広野町のオーガニックコットン畑を応援してきました。2015 年は、広野町内に完成する防災緑地での植樹、パークフェスや車座の開催、女性の手仕事づくりを通じ、賑わいとなりわいを創出し、広野町への町民の帰還が促進されるよう、地元や首都圏の団体が連携して取り組む「広野わいわいプロジェクト」に協力しています。なお、ボランティアバスは FCA ジャパン様、車座はサイボウズ様のスポンサーにより実施しています。

※裏面に「広野わいわいプロジェクト」中間報告を掲載しています。

JKSK ボランティアバス : 綿の定植・草取り (6/13)、草取り (9/12)、収穫 (11/22)  
第 8 回 車座 7 月 10 (金) ~ 11 日 (土) 福島県広野町

## 2. A UW (アジア女子大学) – JKSK 連携プログラム

2015 年 11 月に開催が予定されている A UW の学生サークル「A UW Japanese Circle Club」主催の「日本のおもてなしを紹介する日本の夕べ」(Japanese Restaurant Day) に対して、JKSK は今回の開催のスポンサーとして浴衣と帯、履物、団扇 (10 人分)、日本の食材 (インスタント味噌汁、お吸い物、うどん、お蕎麦、昆布、わかめ等の乾物、など)、日本や世界で人気の日本の駄菓子各種、運営費 10 万円、更に、日本の書籍 (歴史、文化、文学、芸術、スポーツ等)、日本の食器等を 8 月下旬と 9 月下旬に分けて A UW (Chittagong) に送付しました。当日、現場で指導に当たる JKSK & 関係者の派遣も考えています。



### 3. 「こんな生き方～女性100名山 プロジェクト」

#### 1) 原稿のリリース

第5回原稿リリース (2015年10月)

- 奥津真里さん JKSK 監事
- 福井真紀子さん (株) ハーモニーレジデンス 代表取締役
- 中村真紀さん (株) 若菜 代表取締役
- 木全ミツさん&上山良子さん (連載)

#### 2) Off-Salon 会 (原稿掲載者と語る会)

第1回: 2015年10月24日(土) 12:30~16:00 於 CTW表参道 定員: 15人

### 4. JKSK サロン 今後の予定

- 11月 第114回 廣崎英子さん (公認会計士、㈱アクシスK代表取締役、JKSK顧問)
- 1月 第115回 鈴木弘昭さん ((有) ベルアソシエイツ 代表取締役・理学博士)
- 2月 第116回 奥津真里さん (JKSK 監事)

<ご参考>

08 双葉八町村に春を呼ぶ! 広野わいわいプロジェクト (福島県双葉郡広野町) ~広野サステナブルコミュニティ推進協議会~		H27年先導モデル事業 中間報告様式
<p><b>取組全体の概要:</b> 町民の帰還が半数にとどまる広野町において、植樹や交流イベント、綿・果樹の6次化などに着手し、広野町に賑わいと仕事(なりわい)を創出し、地域主体の形成、町民帰還の促進とともに、双葉八町村復興の加速を目指す。</p> <p><b>取組の先導性:</b> 震災直後に緊急時避難準備区域に指定されていた広野町が、にぎわいを取り戻し、住民の帰還を促すために、イベントの定期的な実施や地元特産品の商品開発を活用するという点に先導性がある。</p>		
<p><b>取組①「広野パークフェス」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■8月30日 第一回広野パークフェス ニッ泊総合公園にて開催。広野町及びいわき市から、パフォーマー2組、飲食店や雑貨10店舗にて協力頂いた。合計約300名の来場があった。</li> <li>■10月4日 第二回広野パークフェス 広野小学校駐車場で開催。ご当地アイドルを含むアーティスト3組と飲食・雑貨10店舗にて協力頂いた。フットサル大会との同時開催となり、約750名の来場があった。</li> </ul>	<p><b>取組②「プレゼントツリーin広野」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■6月13日、6月25日、7月10日 防災緑地の視察および富岡土木事務所との打ち合わせ プレゼントツリーとして、防災緑地内の一部のエリアに2,500本の植樹を行うことを確立した。</li> <li>■8月27日、10月1日 防災緑地サポーターズクラブ懇談会 防災緑地サポーターズクラブの懇談会に参加し、植樹に関する仕様詳細の詰めを行った。</li> </ul>	<p><b>これまでの主な実施取組の内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■9月12日 商品開発ワークショップ 首郡圏から参加したボランティア、広野町民など合計40名で商品開発ワークショップを実施した。参加者は、有機綿・オーリーブ・米ぬかホットパック・ブルーベリー・とうがらし味噌について、それぞれ商品化を検討した。</li> <li>■10月5日 いわき市内有機綿・オーリーブ関連団体へのヒアリング 既に商品化されているもの、需要が見込まれるものなどの洗い出しを行い、開発する商品を具体的に検討した。</li> </ul>
<p><b>取組①</b>: 当初予定通り。一回目は、イベントの周知がSNS上や関係者の紹介などに限定されていたことから、集客がうまく出来なかった。その反省を活かし、二回目は町役場を通じて全世界へのチラシ配布や、いわき市のパークフェスやラジオでの広報を行い改善した。三回目は更なる集客を促せるよう、広報を工夫する。</p> <p><b>取組②</b>: 当初予定より若干遅れている。防災緑地は行政・市民・企業など多様な主体が関わっていることから、今後も関係者間の調整が必要である。</p> <p><b>取組③</b>: 当初予定通り。商品開発の素材候補を、有機綿・オーリーブ・米ぬかホットパックの3つに絞り込むことができた。</p>		<p><b>進捗状況の評価・今後の課題</b></p>
<p><b>取組①</b>: 12月13日に第三回広野パークフェスの開催を予定している。</p> <p><b>取組②</b>: 2016年3月5日に植樹祭の開催を予定している。</p> <p><b>取組③</b>: 11月22日に開催するワークショップの際、有機綿・オーリーブ・米ぬかホットパックでの商品開発について、町民の合意形成を促し、商品開発を加速させる。</p>		<p><b>年度内に実施予定の取組内容</b></p>